

2023年度 学長方針

九州工業大学長 三谷 康範

現代社会はVUCAとも表現されるように、少し先の未来でさえ予測することが困難な時代となっています。

そのような時代であっても、活躍し続けることができる人材を育成するためには、社会と柔軟に連携しそのニーズに即した教育研究活動を不断に進化させる必要があります。

九州工業大学では、国籍、年齢、ジェンダー、職業、専門領域などあらゆる垣根をこえた「多様性」をキャンパスに取り込むことで、多様な人と人、多様な技術と技術が出合い、新たな価値を生み出し、未来を考えることができる人材を輩出し続けることを目指しています。

第4期中期目標期間において、本学では、選択と集中により項目を絞って表現した中期目標・中期計画を具体的に遂行させるため、「学長方針」を新たに設定し、教職員一丸となってこの目標の実現に歩んでまいります。

九州工業大学長 三谷 康範



第4期中期目標・中期計画（教育）

（1）産業界に輩出する学生の需要と供給のマッチングを図る

- （1-1）社会ニーズに対して順応性に富んだ、学び続ける姿勢を持った学生を養成
- （1-2）教育のDXを推進し、社会に柔軟に対応した教育プログラムを充実
- （1-3）時代に即した質の高い教育を提供するため、教育組織の全学的な改組を行う

（2）社会人のキャリアアップを支援する

- （2-1）社会人の学び直しを促進するための社会人教育プログラムを構築・実施

（3）国際感覚を持った人材を養成する

- （3-1）戦略的重点協定校と合同で実施する国際教育研究連携プログラム
- （3-2）学生の国際交流の高度化、グローバル・コンピテンシーの向上

第4期中期目標・中期計画（研究・業務運営の改善）

（4）社会変革につながるイノベーションの創出を目指す

（4-1）イノベーション創出を加速する多様な組織対組織の連携制度を整備

（4-2）異分野融合や新たな組織的連携により社会変革につながる研究開発を推進

（5）学長のリーダーシップのもとで、強靱なガバナンス体制を構築する

（5-1）ガバナンス・コード適合状況の改善と組織の機能・権限・責任の明確化

（5-2）教育職員、事務職員、技術職員の業務分担見直しと横断的組織体制への移行

（6）施設・設備の活用と戦略的な整備・共用を進め、機能強化を図る

（6-1）スペースチャージ制度の活性化、施設等の効率的な性能維持改修

（6-2）多様な財源も活用しつつ、大学の機能が発揮できるキャンパスを整備

（6-3）大型研究設備を全学的に利用できる仕組みの構築と学外利用の促進

第4期中期目標・中期計画（財務・自己点検・その他）

（7）安定的な財務基盤確立と学内資源配分の最適化を進める

（7-1）多元的な収入の拡大と学内資源の効率的配分により戦略的投資を拡大

（8）自己点検・評価の結果を可視化、エビデンスベースの法人経営を実現 情報発信、双方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得

（8-1）エビデンスによる自己点検・評価と改善活動、学内外への情報発信

（9）デジタル・キャンパスを推進

（9-1）安全で安心な学びの場、デジタル技術による高度な教育研究活動の場を提供

（9-2）職場環境改善、事務システムの更新・整備

2023年度 学長方針

1. 教育・研究の質向上、生産性の飛躍的な向上を図り、豊かなキャンパスライフを充実

TF タスクフォース

1-1. DX基盤整備

情報統括本部

1-2. DXの教育への活用

教育高度化本部

情報統括本部

1-3. DXの学生生活向上への活用

キャンパスライフ支援本部

情報統括本部

1-4. 事務業務の効率化

管理本部

1-5. ハラスメントフリーキャンパスの実現

コンプライアンス室

2023年度 学長方針

2. 変化に対応可能な、学び続ける人材を育成

2-1. 小中高・大学・社会の一貫した接続
プラットフォームと教育プログラム
(リメディアル・リカレント・リスキリング)

教育接続・連携
PF推進本部

教育高度化本部

TF-4

2-2. 数理・AI・データサイエンス基礎教育

教育高度化本部

2-3. さらに進化するグローバル教養教育
(GCE2.0)

教育高度化本部

国際本部

2023年度 学長方針

3. SDGsを念頭に、キャンパスの多様性を促進

3-1. 共創空間の利用・学内設備の充実

先端研究・
社会連携本部

TF-5

3-2. 未来思考キャンパスの充実 (B5G、カーボンオフセット)

先端研究・
社会連携本部

管理本部

3-3. 多様な学生が学ぶキャンパスの実現 (女子学生, OB/OG, 社会人など)

教育接続・連携
PF推進本部

TF-3

TF-4

3-4. ブレンディッド (リアル＋遠隔) 国際連携交流等

国際本部

3-5. スタートアップ拠点化

先端研究・
社会連携本部

教育高度化本部

TF-5

2023年度 学長方針

4. 強固な信頼に基づく連携によって、教育・研究環境をモードチェンジ

4-1. 設備共用による組織的連携強化

先端研究・
社会連携本部

4-2. 国際連携の研究・教育・産学 連携への展開

国際本部

教育高度化本部

先端研究・
社会連携本部

4-3. スタートアップ拠点を利用した 連携拡大

先端研究・
社会連携本部

TF-5

4-4. 共同研究講座・社会連携講座他 組織連携の充実

先端研究・
社会連携本部

4-5. 全体最適化を目指した教育組織・ ガバナンス体制の構築

管理本部

TF-1

TF-2

TF-6

中期目標・中期計画を実現するための学長方針（具体的方針）

中期目標・中期計画

関連する学長方針

- | 中期目標・中期計画 | 関連する学長方針 |
|--|-------------------------|
| (1) 産業界に輩出する学生の需要と供給のマッチングを図る | 1-2 1-3 2-1 2-2 2-3 4-5 |
| (2) 社会人のキャリアアップを支援する | 2-1 3-3 |
| (3) 国際感覚を持った人材を養成する | 4-2 3-4 |
| (4) 社会変革につながるイノベーションの創出を目指す | 4-3 4-4 |
| (5) 学長のリーダーシップのもとで、強靱なガバナンス体制を構築する | 1-4 4-5 |
| (6) 施設・設備の活用と戦略的な整備・共用を進め、機能強化を図る | 3-1 3-2 4-1 |
| (7) 安定的な財務基盤確立と学内資源配分の最適化を進める | 1-4 |
| (8) 自己点検・評価の結果を可視化、エビデンスベースの法人経営を実現
情報発信、双方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得 | 4-5 |
| (9) デジタル・キャンパスを推進 | 1-1 1-2 1-3 1-4 1-5 |

2022年度 学長方針の進捗状況

1. 教育・研究の質向上、生産性の飛躍的な向上を図り、豊かなキャンパスライフを充実

1-1. DX基盤整備

情報統括本部

これまでの進捗状況

- ✓ 業務・教育・研究の3分野のDXを進めるために、各部署・部局での問題や課題に対する調査を行い、優先順位をつけDXビジョンを策定した
- ✓ 働き方の変化などに対応できる環境整備として、固定電話からTeams電話へ移行する準備を進めた

今後の展開

- ✓ DXビジョンに基づき業務・教育・研究の各システムを再構築し、効率化とIRによる価値創出を目指す

1. 教育・研究の質向上、生産性の飛躍的な向上を図り、豊かなキャンパスライフを充実

1-2. DXの教育への活用

教育高度化本部

情報統括本部

これまでの進捗状況

- ✓ 点在する教育関連データの収集・分析方法を整備し、教学IRの構築に着手した
- ✓ FD研修アンケートでは、職能向上に役立ったと90%以上が回答があった（学生支援に関するテーマは概ね好評）
- ✓ ディプロマ・サプリメントをテーマに「eポートフォリオによる学修成果の可視化コンソーシアム」フォーラムを開催した（2023年3月）

今後の展開

- ✓ 退学や成績分布等のデータをリアルタイムに可視化できるシステムの構築を進める
- ✓ アセスメントテストのデータを活用した躓き学生の早期発見対策を検討する

1. 教育・研究の質向上、生産性の飛躍的な向上を図り、豊かなキャンパスライフを充実

1-3. DXの学生生活向上への活用

キャンパスライフ支援本部

情報統括本部

これまでの進捗状況

- ✓ 医療情報を含むデータと休退学等との分析結果に基づき新たな学生支援プログラムの方向性を示した
- ✓ カウンセラーを主体とした初年次前期の成績に基づく早期支援プログラムや研究室訪問支援プログラム等を開始した

今後の展開

- ✓ 昨年度に開始したプログラムを検証しつつ継続するとともに、新たな支援プログラムについても検討のうえ開始する

1. 教育・研究の質向上、生産性の飛躍的な向上を図り、豊かなキャンパスライフを充実

1-4. 事務業務の効率化

管理本部

これまでの進捗状況

- ✓ 部局と連携の上で課題抽出し着手すべき優先順位を決定した
- ✓ システム改修計画（電子決済、各種の業務システム）を策定した

今後の展開

- ✓ 業務の見える化を進めるべく、マニュアルの整備や各課における工数把握、目標設定・分析などに着手する

1. 教育・研究の質向上、生産性の飛躍的な向上を図り、豊かなキャンパスライフを充実

1-5. ハラスメントフリーキャンパスの実現

コンプライアンス室

これまでの進捗状況

- ✓ 諸制度の整備と周知がすすみ、概ね目標を達成した
 - 教職員向け研修（受講率99%）
 - 情報発信（回数：14回）
 - 組織内オンブズマン制度による対応（件数：10件）
 - 相談窓口との情報共有による対応（件数：7件）

今後の展開

- 学生向け研修実施
- 組織内オンブズマン制度の効果的活用
- 相談窓口の周知、専門職等との連携強化
- 教員向けアウトリーチ型相談会(試行)

2. 変化に対応可能な、学び続ける人材を育成

2-1. 小中高・大学・社会の一貫した接続プラットフォーム と教育プログラム（リメディアル・リカレント・リスキリング）

教育接続・連携
PF推進本部

教育高度化本部

タスクフォース：●リカレント・リスキリングのための実施母体の設計

これまでの進捗状況

- ✓ 初等中等教育、大学、社会を一貫した教育を九工大PF（プラットフォーム）として実施する事を目的とした本部を整備した
- ✓ それぞれにSTEAM教育、キャリア教育、リカレントリスキリング教育をPFとして進める施策の検討を進めた

今後の展開

- ✓ 卒業生のキャリア状況を把握し、リカレント・リスキリング教育の運営母体を社会/企業と連携した形で整備する

2. 変化に対応可能な、学び続ける人材を育成

2-2. 数理・AI・データサイエンス基礎教育

教育高度化本部

これまでの進捗状況

- ✓ 活動紹介ビデオと詳細情報を本学HP上に公開した（2023年4月）
- ✓ 「応用基礎レベル」を申請した（2023年5月）
- ✓ コンソーシアム会議で工学系のモデルシラバスに関わり他大学への普及に貢献した
- ✓ 「AI 工房」を設置し、高度AI開発環境を学生・教職員に提供した

今後の展開

- ✓ 教育コンテンツの公表システムの整備を進める
- ✓ ビッグデータを用いた教育コンテンツの開発を進める

2. 変化に対応可能な、学び続ける人材を育成

2-3. さらに進化するグローバル教養教育(GCE2.0)

教育高度化本部

国際本部

これまでの進捗状況

- ✓ GCE2.0ルーブリック案を策定した（オンラインより実際に渡航した学生の成長幅が大きいことが明確に）
- ✓ GCE2.0へのアントレプレナー教育の要素を導入した
- ✓ 学生の目標達成状況から現実的な成長を確認できる指標を改めて設定した

今後の展開

- ✓ GEコースの活性化を推進する
- ✓ GCE2.0版のルーブリック支援を実施する
- ✓ アントレプレナーシップ教育の科目設計を行う

3. SDGsを念頭に、キャンパスの多様性を促進

3-1. 共創空間の利用・学内設備の充実

先端研究・
社会連携本部

タスクフォース：●アントレプレナー育成・支援全学タスクフォース

これまでの進捗状況

- ✓ GYMLABO / ポルト棟において、KCLピッチコンテスト、ハッカソン、産学音楽交流等イベントの実施や、企業や地域との連携を推進した
- ✓ 3社の企業がGYMLABOシェアオフィスへ入居を完了した
- ✓ GYMLABO利用者数延べ21,229人

今後の展開

- ✓ Kyutechコラボ会員数（2022年度末75社）や外部利用増の企画を進め、収入増加を図る

3. SDGsを念頭に、キャンパスの多様性を促進

3-2. 未来思考キャンパスの充実(B5G、カーボンオフセット)

先端研究・
社会連携本部

これまでの進捗状況

- ✓ 運用を開始したB5G環境を活用した研究がNICTの大型受託研究に繋がった
- ✓ カーボンニュートラルキャンパスPJを始動させ、産学連携による実証を開始した
- ✓ ファブスペース等を備えたイノベーションハブを整備した

今後の展開

- ✓ イノベーションハブの運用方法を検討する
- ✓ Eeハウスを研究成果等の展示スペースとして整備し運用を開始する

3. SDGsを念頭に、キャンパスの多様性を促進

3-3. 多様な学生が学ぶキャンパスの実現

教育接続・連携
PF推進本部

これまでの進捗状況

タスクフォース：●OB/OG及び九工大・リカレント事業履修者の人材バンク
●リスキリング・リカレントのための実施母体の設計

- ✓ 女子学生の入学生割合：18%を実現（特別選抜では25%超の一方、一般選抜、編入学では16%以下）
- ✓ 異年次・社会人（卒業生）との学びの場としてKCLなどをつくり、運用を進めた

今後の展開

- ✓ 女子学生を含めた多様な学生が集まるためのアクションプランを作成し、ロールモデルを提示する機会を増やす

多様な学生⇒女子学生、OB/OG、社会人など

3. SDGsを念頭に、キャンパスの多様性を促進

3-4. ブレンディッド（リアル＋遠隔）国際連携交流等

国際本部

これまでの進捗状況

- ✓ 夏季プログラム渡航者から導入するアンケートフォームを設置した
- ✓ 派遣前後にオンライン交流を含むプログラムにkyutech教育推進事業として奨学金を支給できるよう要件緩和を行った

今後の展開

- ✓ kyutech教育推進事業採択プログラム決定後、年間計画を提示する
- ✓ 年間計画掲載プログラムの合同留学説明会を実施する

3. SDGsを念頭に、キャンパスの多様性を促進

3-5. スタートアップ拠点化

先端研究・
社会連携本部

教育高度化本部

タスクフォース：●アントレプレナー育成・支援全学タスクフォース

これまでの進捗状況

- ✓九州・沖縄の18大学からなるスタートアッププラットフォーム(PARKS)の主幹大学として起業活動支援やアントレ教育等を推進した
- ✓アントレプレナー人材育成・支援TFを設置し、GCE2.0にアントレプレナーシップ教育を取り入れるなど全学でのイノベーション創出を推進している

今後の展開

- ✓GAP資金運営のための支援人材を確保する
- ✓高校生等向けアントレプレナーシップ教育に関する支援事業を推進する

4. 強固な信頼に基づく連携によって、教育・研究環境をモードチェンジ

4-1. 設備共用による組織的連携強化

先端研究・
社会連携本部

これまでの進捗状況

- ✓ マイクロ化総合技術センターにおいて、外部装置利用の増・講習拡大を図った
 - 収入が前年比1.6倍（運営費は自己収入で賄える規模）
 - 全国的な半導体人材育成需要の高まりにより今後も利用拡大が見込まれる

今後の展開

- ✓ 新たに設置した半導体中核人材リスキリング推進室において、新世代デジタル人材を育成し組織連携も推進する

4. 強固な信頼に基づく連携によって、教育・研究環境をモードチェンジ

国際本部

教育高度化本部

先端研究・社会連携本部

4-2. 国際連携の研究・教育・産学連携への展開

これまでの進捗状況

- ✓ ベトナム、マレーシア、インドネシア、エジプトの各社と連携し海外インターンシップ実施を調整した（その他、11社とも調整中）
- ✓ 台湾科技大学を訪問し国際アントレプレナーシッププログラムについて協議し、今年度派遣について協議を開始した（2023年5月）

今後の展開

- ✓ 企業5社を訪問し、インターンシップ再開協議を予定
- ✓ 学内連携を図りアントレプレナーシップ教育の要素を持つ国際プログラムの創出を検討する

4. 強固な信頼に基づく連携によって、教育・研究環境をモードチェンジ

4-3. スタートアップ拠点を利用した連携拡大

先端研究・
社会連携本部

タスクフォース：●アントレプレナー育成・支援全学タスクフォース

これまでの進捗状況

3-5と同様

- ✓ 九州・沖縄の18大学からなるスタートアッププラットフォーム(PARKS)の主幹大学として起業活動支援やアントレ教育等を推進した
- ✓ アントレプレナー人材育成・支援TFを設置し、GCE2.0にアントレプレナーシップ教育を取り入れるなど全学でのイノベーション創出を推進している

今後の展開

3-5と同様

- ✓ GAP資金運営のための支援人材を確保する
- ✓ 高校生等向けアントレプレナーシップ教育に関する支援事業を推進する

4. 強固な信頼に基づく連携によって、教育・研究環境をモードチェンジ

4-4. 共同研究講座・社会連携講座他組織連携の充実

先端研究・
社会連携本部

これまでの進捗状況

- ✓ 共同研究講座2件（上野精機、パナソニック インダストリー）社会連携講座 3 件（FAIS、Chaintope他、FVP）を設置した
- ✓ 北九州市（RE100%） SPACEBD、シンコム、山口県産業技術センター、宇部高専等との包括連携協定を締結した

今後の展開

- ✓ 全国の高等専門学校との連携を強化する
- ✓ AIマッチングシステムに関するコンソーシアム設置の検討する

4. 強固な信頼に基づく連携によって、教育・研究環境をモードチェンジ

4-5. 全体最適化を目指した教育組織・ガバナンス体制の構築

管理本部

タスクフォース：●統合人事制度、●決裁権限大綱、●改組

これまでの進捗状況

- ✓ 第4期中期計画に対応した教育組織再編のための検討体制を整えた
- ✓ 決裁権限大綱を策定した
- ✓ 統合人事制度構築のためのTFを立ち上げ、基本企画を策定した

今後の展開

- ✓ 改組についての具体的な議論を進める
- ✓ 決裁権限大綱の運用および適宜の見直しを行う
- ✓ 外部コンサルとともに統合人事制度を策定し運用をスタートする

タスクフォース一覧

	テーマ名	テーマ概要
TF-1	統合人事制度	現在の人事制度に関する課題を整理した上で、12月末までに、全体構想案を作成。2023年度末までに教育職員・事務職員・技術職員の統合的な人事制度を策定する
TF-2	決裁権限大綱	各本部における決裁項目を洗い出し、本部間の調整も行いつつ、決裁権限大綱案を策定する。
TF-3	OB/OG及び九工大・リカレント事業履修者の人材バンク	OB/OG、九工大・リカレント事業修了者などと継続的に繋がっていくためには、そのための人材バンクとしてのデータベースが必要である。大学内でシステムを立ち上げ、管理することは困難であるため、民間でも利用している顧客管理システムを使った立ち上げを行う。
TF-4	リカレント・リスキングのための実施母体の設計	リカレント・リスキング教育を実施するための母体の設計を行う。継続的にリカレント・リスキング教育を実施するため、事業規模に合わせた組織の柔軟性、収益性を考えると、外部にSPCを設立し、会社経営を委託することも一つの選択肢とする。
TF-5	アントレプレナー育成・支援全学タスクフォース	第4期中期目標の実施、およびJST国プロの「大学・エコシステム推進型」を主幹大学として推進するため、スタートアップ創出・アントレ人材育成の全学体制を構築し、研究面（GAP資金運営、テーマ発掘）や教育面（アントレプレナーシップ教育）の取り組みを推進する。
TF-6	改組	今年度より第4期中期計画がスタートし、本部長制により教育や研究などの各々の分野の責任の所在を明確にし、戦略的な活動を推進している。本タスクフォースは、学長を責任者、中藤理事を統括リーダーとして、現在の大学の教育制度の改革（改組）を進め、第4期中期計画に対応した教育制度を構築する。そのため、複数の部局・本部に横串を通し、担当教員・担当スタッフ間の相互の情報共有や意思疎通を図りながら、改組の方向性の共有と改組の実行を行うことを目的とする。



国立大学法人

九州工業大学